



日本の高校生を元気にする

高校生新聞

工業高校特集

発行所 © 高校生新聞社 2014年(平成26年)6月10日
 創刊 1993年(平成5年)10月1日 年間購読料4,320円(税、送料込)
 本社 〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10
 TEL 042-725-1155 FAX 042-724-2710
 URL <http://www.koukouseishinbun.jp/>
 E-mail henshu@scipa.jp [Twitter @koukousei_news](https://twitter.com/koukousei_news)



<8>工業高校生の活躍

高校生新聞

2014年(平成26年)6月10日 工業高校特集号

ソーラーボート 完全制覇へ

高知県立須崎工業高校
造船部

須崎工業高校造船部は、昨年8月、ソーラーボートの全国大会で学生記録を更新する活躍で、1、2位を独占した。それまでのリタイアや予選敗退などの悔しい思いをバネに、強豪校へと成長を遂げた。

(文・写真 藤川満)

企業チームを凌ぐ 強豪

福岡県柳川市で開催されている「柳川ソーラーボート大会」は、太陽光の力で進むソーラーボートの全国大会だ。昨年、同部はスピードと機動力を競うスラロームコンテスト（学生の部）で上位を独占。これまでの学生記録を4秒も縮め、企業チ

ームが参加する一般の部の優勝タイムをも上回るという驚異的な記録を打ち立てた。

5人の部員全員が造船科に所属している。整備担当として大会に出場した副部長の嶋崎史晃君（2年）は「ソーラーボートは意外に速いのが面白い。見学してすぐ入部を決めました」と話す。

同部は現在、今年の大会に向

けて研究を重ねている。同部のボートはスタートダッシュに優れているが、持久性にやや劣る。その改良が課題だという。それを克服すれば、持久力を競う周回レースとスラロームコンテスト両部門を制することも夢ではない。嶋崎君は「今年はドライバーとして優勝を目指したい」と意気込む。

磨いた技術で 造船業に貢献

「この大会に参加したことで、生徒たちに自信が生まれた」と木下先生は部員たちの成長に目を細める。現在はまだ、木下先生の指導に従った作業が多いものの、今後は部員自ら発案したアイデアを生かしたソー



同部のソーラーボート「Suko2」「Suko3」と部員たち。時速約18km/hのスピードを出すことができる。性能だけでなくドライバーの技術も不可欠だ

ラーボートづくりが理想の姿という。

部員の多くは卒業後、県外の造船業に就職する。ソーラーボートで培った技術と自信で、これからの日本の造船業を明るくしてくれるはずだ。



プロペラの調整を行う嶋崎君。プロペラの微妙な形状の違いによりタイムは大きく変わる

造船科・造船部